

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2011-239596

(P2011-239596A)

(43) 公開日 平成23年11月24日(2011.11.24)

(51) Int. Cl.	F 1	テーマコード (参考)
<b>H02K 55/02 (2006.01)</b>	H02K 55/02 Z A A	5H621
<b>H02K 21/12 (2006.01)</b>	H02K 21/12 M	5H655
	H02K 21/12 G	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2010-109575 (P2010-109575)	(71) 出願人	599035627 学校法人加計学園 岡山県岡山市北区理大町1-1
(22) 出願日	平成22年5月11日(2010.5.11)	(74) 代理人	100114535 弁理士 森 寿夫
特許法第30条第1項適用申請有り 学校法人加計学園岡山理科大学、文部科学省社会連携研究推進事業「地域社会とのコラボレーションによるQOL向上の一体的アプローチ」2009年度研究報告書、平成22年3月発行		(74) 代理人	100075960 弁理士 森 廣三郎
特許法第30条第3項適用申請有り		(74) 代理人	100126697 弁理士 松浦 瑞枝
		(74) 代理人	100155103 弁理士 木村 厚
		(72) 発明者	河村 実生 岡山県岡山市北区理大町1-1 学校法人加計学園岡山理科大学内
		Fターム(参考)	5H621 BB02 BB10 HH01 JK07 JK11 最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 超伝導モーター又は超伝導発電機

(57) 【要約】

【課題】超伝導モーターの簡素化及び小型化に加え、超伝導現象を最大限利用して超伝導モーターの回転効率を高める。

【解決手段】通電コイル23を備えた固定子2と永久磁石32を備えた回転子3とから構成される超伝導モーター1において、固定子2及び回転子3は、単一の真空容器4に内蔵され、固定子2は、絶縁体である冷却環21に超伝導ワイヤー22を巻き付けて通電コイル23を構成し、前記冷却環21を支持ピン24により真空容器4に対して回転不能に支持させ、真空容器4を貫通させた熱伝導ピン25によりクライオクーラー5と冷却環21とを接続し、同じく真空容器4を貫通させた超伝導リード26により電力供給源と超伝導ワイヤー22とを接続し、回転子3は、真空容器4を貫通させた回転軸33を接続し、前記回転軸33をシール軸受け41により真空容器4に対して回転自在に支持させた。

【選択図】 図1

